

## 第6回 新潟市新バスシステム事業評価委員会 議事要旨

■日時：平成30年12月14日（金） 13：30～15：30

■場所：新潟市役所 本館3階 対策室2・3

■出席者（敬称略）

委員

谷口 守（筑波大学 教授）

大串 葉子（嵯山女学園大学現代マネジメント学部 教授）

鈴木 文彦（交通ジャーナリスト）

近野 茂（公認会計士）

岩脇 正之（新潟市区自治協議会会長会議 座長）

菊野 麻子（NPO 法人ワーキングウイメンズアソシエーション）

横尾 文子（NPO 法人まちづくり学校）

オブザーバー

小椋 康裕（国土交通省北陸信越運輸局交通政策部 部長）

### ■議事要旨

委員からの主な意見

- 目安箱の内容は、BRTに対するダイレクトな意見であり重要なこと。BRTの最終評価を実施する際には、これらの資料も活用することが考えられる。
- 目安箱の意見数が減っているのは、住民が諦めてしまったことが原因の一つと考えられないか。郊外の交通弱者が取り残されているように感じてしまうと思うので、丁寧な説明が必要。
- 評価指標の結果が良ければ良しとするのではなく、これからも良い方向に改善していく必要があることを意識すべき。
- 鉄道との乗り換えについて、白山駅の利用者数は増えている状況にあるが、接続が良くなればさらに利用が増えるのではないか。
- 人口が減少していくなかで、将来の利用者の分析は非常に重要なことと考える。
- 今後、住民の要望に沿って運行内容を変更する際は、利用状況により継続や廃止をするといった方針で進めてもらいたい。どうなったら増便、又は減便するのか、基準をしっかりと示すべき。
- 評価指標としてはクリアできているものだと認識しているが、具体的な数値目標を示していく必要があるのではないか。
- 乗り換え抵抗の低減のためには、交通結節点に快適な待合環境があることが大事。この点は地域のまちづくりと連携していくべき。
- これまでの3年間でデータは出揃っている。今後は、これらをしっかりと住民に説明していくことが重要になっていく。
- 改めて新バスシステムはどの方向に向かっているのかを示していく必要がある。

以上